

平成 30 年度

被災世帯等に対するパーソナルサポート事業

実績報告書

目 次

1. はじめに-----	1
2. 活動目標値に対する実績-----	2
2-1. 活動訪問-----	2
2-2. 生活再建相談支援-----	3
2-3. 交流機会創出活動-----	3
2-4. ケースカンファレンス-----	7
2-5. データベース化（支援活動履歴の記録）-----	8
2-6. 他支援機関との連携会議-----	9
(a) 支援担当者会議-----	9
2-7. 事例検討勉強会-----	10
2-8. 研修実績-----	11
3. その他の事業成果-----	13
3-1. 緊急一時支援の実績-----	13
(a) 食糧支援実績-----	13
4. 統括および次年度への展望-----	14

添付資料 別紙：非公開資料

1. はじめに

当財団は、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災を機に被災者支援の活動を開始しました。平成 24 年度より開始した「大船渡みらいサポート事業」では、「在宅被災世帯」を対象に実態把握と見守り支援を 2 年間にわたり実施しました。現在までに 683 世帯の調査、把握がなされています。平成 26 年度より開始した「被災世帯等へのパーソナルサポート事業」においては、前身事業の活動を引き継ぎ、在宅被災世帯を主な対象とした見守り支援からスタートしています。

しかし、被災地の状況は当初事業から大きく変化しており、それまでの見守り型の支援から課題解決型の支援、単独型から地域連携型の支援への対応が求められ、地域にある「人」や「制度」などの資源を活用して生活再建を目指す支援を行いました。住民自身の力や地域力を連関させる、復興に向けた重要な取り組みであったと言えます。

平成 26 年度末から当事業が参画した「大船渡市応急仮設住宅支援協議会」では、仮設住宅からの生活再建の目処が立たず、将来の見通しを立てることが困難な世帯に対し、課題解決型の支援を行う役割を担いました。その後、仮設住宅団地の撤去・集約の進捗に合わせながら、協議会内での連携・協働体制の構築を図り、多機関連携による支援体制づくりを進めました。

平成 30 年度は特定延長対象を含めた応急仮設住宅の供与期限収束を迎えるため、仮設住宅からの退去に向けた対応が必要とされてきました。当財団は、孤立や生活困窮のおそれが窺われる世帯や他機関では対応困難な状況にあった支援困難世帯への対応を担い、地道な自宅訪問活動を通じて活用できる制度の案内や手続きサポート、経過確認を進めました。その結果、当財団が担当した支援世帯すべてが、転居、生活再建の道筋を明確にすることができ、仮設住宅からの円滑な転居が進むことになりました。

当事業の活動は一貫して、支援が届きにくく、自ら助けを求めることが難しい状況に置かれている「もっとも小さくされたものへの支援」を目的としています。復興が進む中、被災住民が生活再建後も安心して生活して行くことができる地域を創造することが、当事業の使命であると考えます。今後も、大船渡市の復興に寄与できるよう、更に支援の質の向上に努めて参ります。皆様のより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2. 活動目標値に対する実績

2-1. 訪問活動

被災世帯を主な対象とし、継続支援および新規調査のための戸別訪問活動を行った。また、災害公営住宅に転居後の孤立対応訪問、在宅被災者の家族課題への訪問相談等のため、昨年度同様、活動の目標値を上回った。

(単位:件)

	2018年度												累計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
継続訪問	130	121	146	171	145	85	205	138	116	138	78	75	1,548
新規調査	1	0	2	0	2	0	6	2	2	3	0	0	18
訪問合計	131	121	148	171	147	85	211	140	118	141	78	75	1,566

目標値

件数	月	目標件数
100	12	1,200件

目標値：100件/月×12ヶ月＝1,200件

達成率

訪問総計	目標件数	達成率
1,566	1200	130.50%

達成率：1,566/1,200＝130.50%

在宅被災世帯再調査実績

	地区名	再調査済み	不在	その他	計
1	末崎町	62	13	0	75
2	大船渡町	77	26	0	103
3	盛町	34	28	0	62
4	猪川町	0	4	0	4
5	立根町	0	0	0	0
6	赤崎町	19	9	0	28
7	三陸町綾里	14	2	0	16
8	三陸町越喜来	17	7	0	24
9	その他	0	0	45	45
	総計	223	89	45	357

不在は、数回訪問しても確認できなかった世帯の他に施設入所や病院入院、および対象者死亡等の件数。

その他については、転居先不明や居住実態が把握できなかった世帯。

2-2. 生活再建相談支援

今年度は、年度末に応急仮設住宅の供与期限を迎えるため、転居困難世帯への転居支援、生活再建対応に注力した。その結果、対応件数は、想定の目標値に達した。

(単位:件)

	2018年度												累計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
件数	18	3	4	4	8	5	4	6	4	5	3	1	65

目標値

件数	月	目標件数
20	12	240件

目標値：20件／月×12ヶ月＝240件

達成率

訪問総計	目標件数	達成率
65	240	27.08%

達成率：65／240＝27.08%

2-3. 交流機会創出活動

仮設住宅供与期間の終了に伴い再建世帯が増える一方で、新たなコミュニティー形成の必要性や既に再建して災害公営住宅等に転居された世帯間でも課題が顕在化し始めていることから、サロン活動以外にも地域が抱えている課題を把握するために、今年度は、地域住民や各団体等のヒアリングや相談にも重点をおいて活動を実施し、地域における孤立の解消や世代間交流の活性化に取り組んだ。

また、孤立傾向にあってサロンへの参加が困難な世帯については、昨年度と同様に訪問支援の中で手芸などの趣味や余暇の活動につながる題材の提供を行うことでサロンに向けた働きかけを行い、孤立の解消に向けた取り組みを図るなど、新たな可能性を見出す活動を継続的に行った。

交流機会創出活動実績

月	名称・内容	主催・協力機関	開催回数	参加者
4月	重複している訪問世帯等に対する情報と意見交換、連携について協議した。今後も情報交換の場を設けることにした。	カリタス大船渡	1	2
	共同開催のサロンについて協議、調整。今後も継続的に連携しながらコーディネートする。	キャッセン大船渡	1	1
5月	サロンの打ち合わせ 上平団地はサロンの参加者も多く、将来は自主的な運営が出来るような支援を考える。	県営上平団地	1	2
	7月開催イベントの情報交換と開催に関する相談対応。	いわて連携復興センター	1	2
	協働手芸サロン開催	カリタス大船渡	1	5
	手芸サロン（七宝まり）	上平サロン（上平団地）	1	8
6月	6月オープンした手芸を中心としたサロン活動を行う。地域交流の場として活用でいなか検討する。	おたすけレディース	1	2
	サロンの打ち合わせ 「おおふなと花の会」と協働でひまわりプロジェクトの開催を7月上旬に行うことにした。	キャッセン大船渡	1	1
	手芸サロン（七宝まり）	上平サロン（上平団地）	1	10
	陶芸サロン	宇津野沢アパート	1	6
	陶芸サロン	上平団地	1	17
7月	サロンの要望に対応する。近隣住民と一緒にサロンを行うことにした。	上山東アパート	1	2
	陶芸作品お渡し会サロン	宇津野沢アパート	1	10
	陶芸作品お渡し会サロン	上平サロン（上平団地）	1	17
	手芸サロン	上山東アパート	1	9

8月	手芸サロン（余暇支援） 自治会長より住民の交流機会 として再開催の要望あり	野々田アパート	1	3
9月	親子で調理して食事をする 「地域食堂」について情報共 有した。共生は食材提供を検 討する。	にこにこ浜っ子クラブ	1	2
	地域交流意見交換。カリタス がイベント予定のない日は場 所を無償で提供してもらうこ とになった。陶芸サロン開催 の提案をする。	カリタス大船渡	1	2
	手芸サロン	野々田アパート	1	8
	手芸サロン	末崎町	1	6
10月	「おらほアート展」開催に向 けた相談対応と意見交換	Home of Wisdom	1	2
	「地域食堂」への食材提供	にこにこ浜っ子クラブ	1	2
	地域の状況、居場所ハウスの 近況について情報共有。 居場所ハウスはスタッフの高 齢化や担い手確保に苦慮して いるとのこと。共生として状 況に応じて支援や協働を検討 する。	居場所ハウス	1	2
	陶芸サロン	清水アパート	1	3
	陶芸サロン	蛸ノ浦アパート	1	4
11月	陶芸サロン	カリタス大船渡	1	13
	居場所ハウスはスタッフの来 所者へ対する意識低下・マン ネリ化を危惧している。自己 啓発に繋がる勉強会の開催を 実施することにした。	居場所ハウス	1	1
	手芸サロン	上山東アパート	1	8
	陶芸作品お渡し会サロン	カリタス大船渡	1	10
12月	陶芸作品お渡し会サロン	蛸ノ浦アパート	1	3
	共生サロンの参加者とサロン について意見交換。地域資源 を活用した交流機会を広げ	共生サロン	1	5

	る。			
	地域サロンや訪問世帯の余暇支援について情報交換。今後も情報交換しながら地域交流の場を広げる。	おたすけレディース	1	2
	手芸サロン	共生サロン	1	3
1月	災害公営住宅の集会所を利用して地域住民とサロンを開催する相談に対応	清水アパート	1	2
	防災観光交流センターにて手芸サロンと昼食会で交流を深めた。	共生サロン	1	3
2月	手芸サロン。公営住宅の住民が講師となりお手玉づくりを行った。	清水アパート	1	2
3月	活動予定等の情報交換を行った。健康講座へ支援要請があり協力することにした。	居場所ハウス	1	1
	子ども食堂について情報共有した。「子ども食堂」は困窮世帯のイメージがあるため「親子食事会」として2ヶ月に一回開催中とのこと。	浜っ子クラブ	1	2

開催回数：38回 目標値：4回／月×12ヶ月＝48回 達成率：38／48＝79.1%

2-4. ケースカンファレンス

スタッフ間の支援対象世帯情報の共有と、支援プランの検討・見直しのため、リプラン検討会議（ケースカンファレンス）を行った。また、その他の情報共有のため、スタッフ全体ミーティングを行った。

他機関と共同で開催した支援担当者会議やモニタリング(経過確認)等は含まれていない。支援にあたって必要な討議・検討をおこなうことができた。

リプラン検討			全体MTG		
月	日付	実施回数	月	日付	実施回数
4月	9日	1	4月	6日	1
5月	11日	1	5月	15日、30日	2
6月	4日、5日、6日	3	6月	なし	0
7月	なし	0	7月	26日、30日	2
8月	23日	1	8月	1日	1
9月	10日、21日	2	9月	5日	1
10月	10日	1	10月	11日、22日	2
11月	2日、5日、21日、26日	4	11月	なし	0
12月	11日、14日、26日、28日	4	12月	なし	0
1月	11日、24日	2	1月	なし	0
2月	22日、25日	2	2月	なし	0
3月	1日、4日、5日、8日、14日 15日、22日、29日	8	3月	なし	0
合計		29	合計		9

目標値

件数	月	目標件数
5	12	60件

目標値：5回／月×12ヶ月＝60回

達成率

訪問総計	目標件数	達成率
38	120	31.67%

達成率：38／60＝63.3%

2-5. データベース化（支援活動履歴の記録）

訪問活動および他機関へのつなぎ等の支援活動を行い、その記録をデータベース化した。

戸別支援活動実績集計表

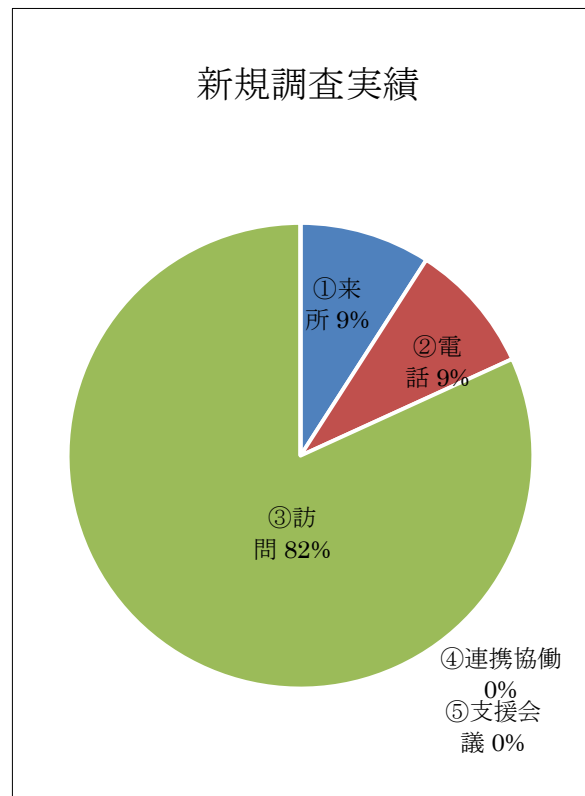
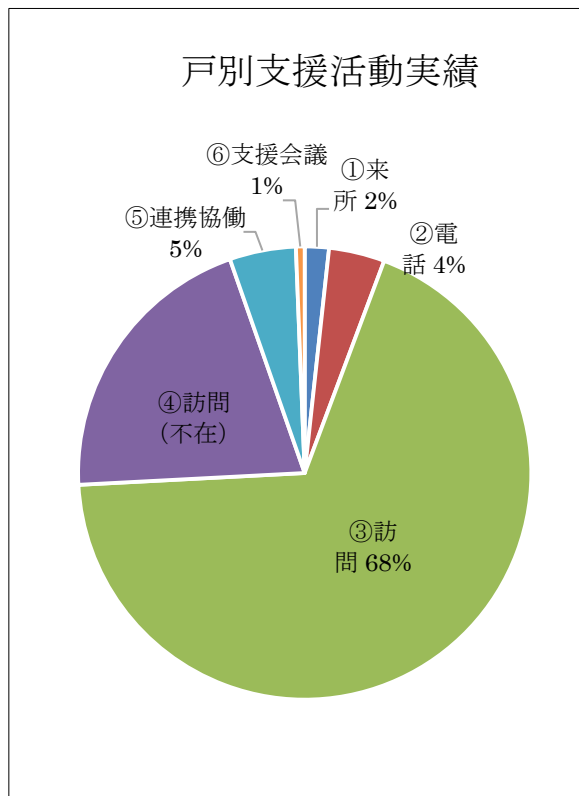
(単位:件)

項目	2018年度												累計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
①来所	1	5	9	6	5	2	6	3	0	0	2	0	39
②電話	4	7	10	11	7	7	10	8	7	7	6	6	90
③訪問	130	121	146	171	145	85	205	138	116	138	78	75	1,548
④訪問(不在)	27	28	49	45	46	27	66	64	35	35	18	23	463
⑤連携協働	9	2	8	6	7	19	10	10	13	14	7	2	107
⑥支援会議	1	0	0	0	0	0	0	2	3	5	1	2	14
件数	172	163	222	239	210	140	297	225	174	199	112	108	2,261

新規調査実績集計表

(単位:件)

項目	2018年度												累計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
①来所	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
②電話	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
③訪問	1	0	2	0	2	0	6	2	2	3	0	0	18
④連携協働	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤支援会議	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
件数	1	1	2	0	3	0	6	3	2	3	1	0	22



2-6. 他支援機関との連携会議

(a) 支援担当者会議

月	連携先	アセスNo.	内容
4月	大船渡市社会福祉協議会	712	仮設住宅から災害公営住宅に転居したが、就労、金銭、健康などの複合的な課題を抱えた50代独居男性について、今後の対応方針の申し合せを行った。
	社会福祉法人成仁会祥風苑		
5月	特記事項なし		
6月	特記事項なし		
7月	特記事項なし		
8月	特記事項なし		
9月	特記事項なし		
10月	特記事項なし		
11月	大船渡市社会福祉協議会	188	介護サービスの利用開始と最近の健康状態等について情報共有を行った
12月	介護老人保健施設気仙苑	773	入所者の退所に向けた今後の対応について協議を行った
	大船渡市社会福祉協議会	188	介護サービスの利用状況と今後の訪問について情報共有を行った
	地域包括ケア推進室	706	多機関連携による訪問体制について情報共有を行った
1月	介護老人保健施設気仙苑	773	入所者の退所に向けた今後の対応について協議を行った
2月	大船渡市社会福祉協議会	766	金銭面の困窮が想定されることから協議を行った
3月	大船渡市社会福祉協議会	507	就労支援について情報共有と対応協議した。その後、就労したので就労状況の情報共有と今後の対応について協議した。

2-7. 事例検討研修会

関係領域でパーソナルサポートを行っている他機関より講師を招き、当事業内での支援ケースについて検討、意見交換を行うことで、支援内容の向上を図っている

月 日	研修内容	講 師
5/17～5/18	3事業所合同にて共生地域創造財団の「歴史」「現在」「未来を創る」と題してワークショップ・研修会・理事との交流会を行った。	奥田知志（共生地域創造財団・代表理事）（ホームレス支援全国ネットワーク代表理事）ほか
8月15日(水)	「生活保護申請の扶養照会」を例に情報収集の注意事項について等の意見交換を行った。	所内研修担当スタッフ
8月17日(金)	「老後困窮」家族の在り方について。8050世帯へ支援するうえでの注意事項などの意見交換質疑応答を行った。	所内研修担当スタッフ
8月31日(金)	共生地域創造財団「理念」の考え方を具体例を交えた講和と質疑応答を行った。	熊谷新二（共生地域創造財団・SV）
10月26日(金)	3事業所合同で各事業所の事業進捗報告と今後の事業について研修と意見交換を行った。	奥田知志（共生地域創造財団・代表理事）（ホームレス支援全国ネットワーク代表理事） 理事ほか

2-8. 研修実績

スタッフの個別支援スキルの向上や地域づくりのノウハウの吸収、組織運営の知識を身につけるための研修会に参加した。

日付	研修名	主催・講師	時間	参加者
5/9	「大和証券フェニックスジャパン・プログラム2018」助成金募集に関する説明会	NPO法人 日本NPOセンター	1:30	1
5/11	被災者生活設計アドバイザー制度に係る勉強会	岩手県被災者生活設計アドバイザー 戸田 節子氏	1:30	3
7/17	平成30年度第1回いわて復興未来塾～東日本大震災津波から学ぶ～	いわて未来づくり機構 講師:岩手県知事 達増 拓也氏 他	3:30	2
8/20	平成30年度岩手県高齢者等サポート拠点職員等研修	岩手県 講師:明石市社会福祉協議会地域総合支援センター 永坂 美晴氏	6:00	4
8/27	平成30年度第1回被災者こころのケア従事者研修会(1)	岩手県大船渡保健所 講師:岩手大学特任准教授 佐々木 誠氏	2:00	3
8/30	アルコール問題にかかる支援者向け研修会(1)	国立病院機構花巻病院 精神保健福祉士及び臨床心理士	2:30	2
9/6	組織の共感力向上セミナー	岩手県 講師:日本ファンディング協会 東森 歩氏	2:00	1
9/6	平成30年度岩手県高齢者等サポート拠点職員等研修	岩手県 講師:淡路市社会福祉協議会 事務局 局長 風 保憲氏	6:00	4
9/14	平成30年度被災者こころのケア従事者研修会(2)	岩手県大船渡保健所 講師:岩手大学特任准教授 佐々木 誠氏	2:00	4
9/25	大船渡市地域助け合い創出研究会	大船渡市地域包括ケア推進室 講師:秋田県小坂町福祉課町民福祉班 主事 三政 貴秀氏	2:30	3
9/28	認知症予防&認知症サポーター養成講座	大船渡市地域包括ケア推進室	2:00	2
9/28	アルコール問題にかかる支援者向け研修会	国立病院機構花巻病院 精神保健福祉士及び臨床心理士	3:00	2
10/12	平成30年度岩手県高齢者等サポート拠点職員等研修	NPO法人全国コミュニティサポートセンター理事長 池田 昌弘氏	3:30	3
10/25	生活困窮者自立支援事業とよりよいホットライン連携シンポジウム	一般社団法人a.iwateりんく 講師:中核地域生活支援センターがじゅまるセンター長 朝比奈 ミカ氏	3:00	2

10/30	企業×NPO岩手交流会	いわて連携復興センター	3:00	1
11/5	平成30年度岩手県高齢者等サポート拠点職員等研修	岩手県 講師:明石市社会福祉協議会地域総合支援センター 永坂 美晴氏	6:00	2
11/6	石巻事務所主催講演会	キズナグループ代表 安田 祐輔氏	2:30	3
11/10～ 11	第5回生活困窮者自立支援全国研究交流大会	生活困窮者自立支援全国ネットワーク	10:00	2
11/12～ 13	熊本・福岡研修	NPO法人 包樸	8:00	2
11/14～ 15	熊本・福岡研修	NPO法人 包樸	8:00	2
11/24～ 25	第51回公的扶助研究全国セミナー	第51回公的扶助研究全国セミナー実行委員会 講師:花園大学 吉永 純氏 ほか	10:00	2
11/26	グリーフケアセミナー	上智大学グリーフケア研究所 講師:特任所長 高木 慶子氏	2:00	2
11/29	平成30年度岩手県高齢者等サポート拠点職員等研修	古い支度普及センター・古い支度コーディネーター 石黒 秀喜氏	2:30	3
11/30	第15回伴走型支援士2級講座記念講演及びシンポジウム	公益財団法人共生地域創造財団	5:30	7
12/1	第15回伴走型支援士2級講座	公益財団法人共生地域創造財団	8:00	1
12/2	第15回伴走型支援士2級講座	公益財団法人共生地域創造財団	3:00	1
12/3	第3回大船渡市助け合い創出研究会	地域包括ケア推進室 地域で可能な暮らしの足を考える	2:30	2
12/9	第14回ソーシャルワーク研究会シンポジウム	ソーシャルワーク研究会	5:00	2
12/16	気仙地域保健医療福祉担当者等連絡会	岩手県発達障がい者支援センター ウィズ 発達障害の理解と対応	1:30	2
12/18	認知症サポーター養成講座	大船渡市地域包括ケア推進室	2:00	1
1/24	平成30年度クレイアートフォローアップ講習会	NPO法人おはなしころりん (協賛:日清製粉)	2:00	2

2/18	平成30年度「就労準備支援セミナー」	大船渡市社会福祉協議会	2:30	2
2/21	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構心のケア班市民講座	ストレス対策の基本 岩手大学人文社会科学部 教授:山口 浩	1:30	2
2/25	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構心のケア班市民講座	悲しみを抱える・悲しみを支える 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 特任准教授 佐々木 誠	1:30	2
2/27	精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向け「これからの気仙地域を考える」	気仙地域障がい者自立支援協議会	4:00	2
			132:00	81

※研修実績のまとめ

講座数	受講時間	参加人数
35	132時間00分	81名

3. その他の事業成果

3-1. 緊急一時支援の実績

(a) 食料支援実績

特定非営利活動法人フードバンク岩手の協力により食料支援物資を準備、低所得・孤立世帯や家計課題を抱える世帯に対して、地元の社会福祉法人、生活困窮者自立相談支援等と情報共有・協働しながら、支援プランに基づいた緊急一時支援を実施している。

主食（白米）	主食（麺類・アルファ化米）	副食（缶詰）	副食（レトルト類）	提供世帯数
77kg	375 個	55 個	186 個	95 世帯

4. 総括および次年度への展望

今年度は、見守りが必要な高齢者世帯および孤立傾向や複合的な課題を抱えている世帯への継続的な支援に加え、被災からの経年による健康や環境の変化による懸案を把握するために、震災後に当財団が関わった在宅被災世帯（683世帯）の再調査訪問を行った。（今年度実績：357世帯）また、孤立傾向にある高齢世帯や障がいがある要経過確認世帯への伴走支援として、訪問支援、来所相談、地域サロンコーディネート等に対応してきた。

大船渡市応急仮設支援協議会（以下、仮設支援協議会）を基盤とした多機関連携においては、年度末で特定延長対象世帯を含めた応急仮設住宅の供与期限収束を迎えることから、転居課題を抱える世帯のうち、他の地域資源では支援困難となっていた世帯を中心に早期再建に向けた支援活動に取り組んだ。結果として、仮設支援協議会が対応する世帯は、平成31年3月末までに、一部の世帯を除き退去が完了した。また、仮設住宅から災害公営住宅に転居した世帯の縦断的支援も継続的に行っているが、生活課題が複合的な場合は、これまで同様、関係機関を通じた支援体制のコーディネートによる多機関連携による包括的な支援体制で対応した。

当財団が行った多機関による連携・協働のネットワークづくりは、これまでのようなネットワークから対象者に向かうものではなく、あくまで支援対象者のニーズからネットワークに向かう形で構築してきた。最初に対象者の生活状況をアセスメントし、そこから抱えている課題に対する主訴を明確にする手順は、より対象者を大事にした支援体制の構築につながっている。大船渡市の復興が進む中、当事業を通じて、平時に汎用できる支援体系を模索してきた。大船渡市が、地域に狭間を生まない、孤立を生みにくい地域となるよう、当財団の理念である「もっとも小さくされたものへの支援」の具現化に向け、今後も精進して行きたい。

以上